

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472900246		
法人名	医療法人豊和会		
事業所名	グループホーム第2やまもも		
所在地	三重県志摩市阿児町鵜方2555-9		
自己評価作成日	令和3年 6月 6日	評価結果市町提出日	令和3年8月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JizyosvoCd=2472900246-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 3年 7月 12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

病院が併設されているため医師が24時間常駐している。また、医療連携の看護師とは24時間連絡が取れる体制になっている。利用者様の健康管理は主治医が訪問診察を行い、きめ細かい指示のもと介護を行っている。豊和病院への通院の介助も行っている。職員は、利用者様の笑顔の場がたくさん見られるよう、利用者様主体の介護を心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

志摩市のほぼ中央部、近鉄鵜方駅に程近い住宅地のはずれに建つ事業所は、平成15年の設立以来今年で18年目を迎える近隣でも有数の福祉事業所である。運営主体は同じ敷地に病院を展開する医療法人で福祉・医療の拠点として地域住民から信頼される事業所である。職員は近隣地区の出身者が多くベテラン揃いで互いの立場や役割を充分理解しながら利用者目線に立った行き届いた支援を行っている。現下はコロナ禍の最中であり特に地域との交流や外出が出来ず不自由な支援が続いているが、コロナ後の支援のあり方に想いを馳せ更なる発展を目指す事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『私らしく暮らす家』である事を常に忘れず、楽しく豊かにくらすようなサービスの実践を心がけている。	設立当初からの理念であり、職員皆で考えられたものである。平易な言葉でケアのあり方を示したもので、職員もよくこれを理解し大切にしている。玄関ロビーに飾られた大きなタペストリーのような貼り紙作品の中にも表現されており特に印象的である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人の事務部門が自治会に入会しているの、そこから情報を収集したり、運営推進会議のメンバーである自治会関係者から情報を収集している。	コロナ禍以前は地元の道路清掃や祭りなどのイベントにも参加して地域との交流が盛んに行われていたが、今は閉塞状態である。しかし、運営推進会議の資料等のやり取りを通じて情報を収集するなど地域との交流を途切れさせない努力がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	経験豊かな職員がリモートにて開催される色々な会議に参加して、認知症の方との関わり方や連携について意見を出している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、出来事や行事などを報告しサービスの向上にむけたご意見や問題解決のアイデアなどを頂いている。	運営推進会議は、これまで年6回、偶数月に自治会長や行政、老人会長、民生委員など多彩なメンバーで開かれ活発な意見交換が行われていたが、現在は会議形式が出来ずやむなく資料のやり取りで意見収集を行っている状況である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には参加していただけないが、ケアサービスの取り組みについて報告すると共に法的な事の相談やアドバイスを頂いたりしている。	市行政とは運営推進会議が開かれない今、通常の届出や報告のみで定期的に訪れる程度であるが、少ない機会においても情報の収集に努めている。また市内の「サービス事業者連絡協議会」も去年今年と開かれておらず、これらの再開も待たれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の講習会があれば参加し、正しい理解を深め拘束廃止に向け、前向きに取り組んでいる。	独自の防止マニュアルに基づき3か月に1度は職員全員で話し合いを行っている。また県市などの研修会もズーム会議の形式ながら参加している。これまでも拘束等の事例はないが、より良いケアのあり方を模索して職員の意識は高い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修があればリモートで参加し、高齢者虐待について学び職員全員で防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の冊子を取り寄せ、啓発に努めると共に関連の研修があれば参加し活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談員により十分説明を行い、同意を得たうえで契約頂いている。＜入所前の施設の見学も可能だが、今はしていない＞		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の見やすい場所に相談窓口の掲示やご意見箱を設置すると共に重要事項説明書にも記載してご意見を頂ける様努めている。	家族意見の収集には面会時が最も良い機会であったが、コロナ禍のなか面会そのものを制限しており思うに任せない状況である。それでも介護計画の確認など必要書類のやり取りを通じて電話での聞き取りに努力しており、当面はこれ続けることとしている。	現在のコロナ禍もいずれは終息されるはずであり、その時に備えて今後の家族意見の収集のあり方を考え、またそれらを反映出来る体制づくりの準備・検討を行われる様期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングや申し送りノートを活用して様々な意見や提案を汲み取るよう努めている。	職員会議は月1回のケア会議と併せて行われており様々な意見が出され検討されている。昨今ではコロナ関連が多く防護ネットやシールドの設置、また手指消毒のあり方などの意見が出され、現状での利用者や家族への対処について積極的な検討がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や資格修得状態など、人事考課に反映し各自がやりがいを持って就労出来る様に環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得など、様々な講習会の情報を提供し積極的に参加する環境を整えと共に受講費の補助や勤務体系などをサポートしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の介護サービス施設が加入する連絡協議会に参加し、職員同士の相互交流を図ると共に最新情報の収集に努めていたが1年半ほどない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時、いろいろな項目についてゆっくり話を伺う機会を設け、ご本人の要望にしっかり耳を傾け、その情報は職員全員が共有し、より良いサービスの提供に活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に家族からゆっくり話を伺う時間を持ち、困っている事、不安や要望を汲み取り、信頼関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	きめ細かくアセスメントを行い、必要なサービスを見極め提供するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干しや後片付けなど、出来る事を手伝って頂いたり、理念にあるように、ゆったり、楽しく、一緒に、豊かに暮らす家族のような関係であるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が窓越しに面会にみえた時には、近況を報告したり、電話など積極的にコミュニケーションを取り、利用者様をご家族と共に支えている意識を持ってサービスにあたっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人などが面会にみえた際は、ゆっくりして頂けるよう椅子やお茶をお出ししていたが今は出来ていない。	この時期、以前のように外出したり知人や近所の人などが来てくれることは殆どなくなったが、少ない機会の中での玄関ガラス扉越しの面会や敷地内に限定しての外出など、利用者の思いを推し量りながら工夫と努力の支援がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソファーに座れる方、車椅子の方など座る位置を工夫し誰とでも会話でき、より良い関係が続くよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や転所された方は、お見舞いに伺ったり、ご家族にも気軽に遊びに来て下さるよう声をかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人から要望や『こうしたい』と希望する声が聞かれた時は、出来るだけ意向に沿うよう努めた。声にならない思いもたくさんあるので、さり気ないサインを見逃さず叶えられるよう努力している。	現在入居の利用者は比較的介護度が低く、そういう意味では意思の確認等が容易である。会話の多くは職員と利用者が個別に接するとき、特に入浴時や就寝前の居室などが多く、職員もまたこれらの機会に積極的に話し掛けて個々の思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、これまでの生活歴などをゆっくり聞き、内容をまとめ、職員でその情報を共有し、日々のサービスに生かしている。また、日常会話から得た情報なども介護記録に書き残し共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の心身の状態、出来る事、出来ない事をシートに拾い出し、それを基にケアプランを作成している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成した介護計画は3か月に1度モニタリングを行い、本人の希望や心身の状態、家族の希望を取り入れ作成している。	介護計画は大きな変化がない限り3か月に1度定期的に見直すこととしており、現在の入居者は状態の変化が少ないのが特徴的である。家族へは6か月毎に計画書を郵送し意見を求めているが、これまで特段の事もなく家族と事業者の信頼関係が築かれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様ごとの介護記録があり、食事、バイタル、排泄の様子、気付いたこと、主治医の指示など細かく記録し職員は出勤するとすぐ目を通し、情報の把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院に併設しているため、月に2回、主治医による訪問診察を行い、日常のきめ細かい健康管理に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の中で地域資源の情報を収集したり、利用者様の生活が豊かになるよう、医療、行政、などと協働し支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在利用者様9名全員が併設病院の医師が主治医であるが、希望に応じ他の医療機関の受診も可能である。訪問歯科も利用できる。	利用者全員が事業所の運営母体である病院の医師をかかりつけ医としており、月2回の訪問診療の他、緊急時には随時往診可能で24時間対応は、利用者・家族の大きな安心となっている。また協力歯科医による訪問診療もあり受診支援は充実している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者(看護師)や医療連携の看護師と介護記録を共有し、利用者様の健康管理についてアドバイス頂いたりしている。また、24時間連絡が取れる体制であり、緊急時に備えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、相談員がきめ細かく対応している。また、日頃から地域の病院との連携に努め、情報交換も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合のグループホームの指針について文書で説明を行い、同意を得て署名、捺印頂いている。終末期には再度、主治医、家族、介護職員の3名で話し合い看取りに取り組んでいる。	事業所として医療行為を伴わないことを前提として看取りケアを実施することとしており、利用者家族にもその旨説明し了解を得ている。昨年は4件の実績があったが、画一的なマニュアルではなく利用者一人ひとりに寄り添った臨機応変な支援に取り組むこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についてマニュアルを作成し、初期対応や連絡方法など各自周知している。定期的に消防署の救命講習に参加し、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回併設病院との合同避難訓練及び、グループホーム単独で、夜間想定避難訓練を行い非常時に備えている。運営推進会議の参加者にも訓練の様子を見て頂き、協力をお願いしている。	事業所の付近に河川や高い山などではなく地勢的に水害や土砂災害の恐れは少ないが、それ以外の火災や地震を想定して隣接病院と合同で年2回、また事業所独自でも年1回のそれぞれ避難訓練等を実施しているなど防災意識は高い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お世話させて頂くという気持ちを忘れず、人の尊厳を大切にしたいケアを心がけている。特に排泄の介助などプライバシーに配慮した介助や言葉かけを心掛けている。	利用者個々の支援、特に排泄や着替えなどは他の利用者の目に触れないよう配慮しているが、単に隠すのではなく個人のプライバシーのあり方を考え、利用者の思いを量りながらそれぞれの場面での最良の支援となるよう努力を重ねている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない会話の中に利用者様の本当の気持ちが表れる時があるので、その瞬間を見逃さないよう大切にしている。また想いを引き出せるような声掛けやゆとりのある時間の過ごし方を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームには特に決まったタイムスケジュールはないので、利用者様の気持ちや体調を尊重し、楽しく1日を過ごして頂けるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容や着替えなど、出来るだけご自身で、お好みに合わせて出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好き嫌いや軟らかさの形状など利用者様それぞれに合わせて、個々に対応している。片付けなど、無理のない範囲で手伝って頂いている。	食事については、この8月から運営法人の管理栄養士が献立を行うことになっている。調理は職員が行っており、リビングに隣接した台所は常に利用者の姿を確認できるもので、時には利用者も準備を手伝うこともあり家庭での生活を彷彿とさせる場面も見られる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を毎食介護記録に残し、栄養状態など把握に努めている。水分摂取は積極的に声を掛け促すようにしており、利用者様ごとにペットボトルでお茶を持って頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来るだけご自身でして頂くよう声をかけ、介助が必要な方は、出来ない部分を職員が手伝うようにしている。また、歯科医師による歯科検診も出来る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録に排泄状態を記録してリズムを把握し、プライバシーに配慮した声のかけ方や誘導を心掛けている。	排泄については、利用者の3分の2が一応自立しており、個々の管理表に基づいて誘導や一部介助を行っている。夜間のオムツやポータブルトイレなどを利用している場合もあるが、あくまでも利用者個々にその人らしい生活ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防効果のある食材やメニューを工夫し、出来るだけ薬に頼らず排泄出来るよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	風呂は毎日準備しており、各利用者様は週2～3回のペースで入浴して頂いている。入浴を拒否される方もあるが無理強いせず、誘い方を工夫するなどして、楽しく入浴して頂くよう心掛けている。	入浴は週2～3回を基本としているが、利用者から希望があったり汚染があった場合はその都度対応している。利用者の中には入浴を拒む人も居るが足浴や清拭、ドライシャンプーなどで対応し常に清潔を保つようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具は常に清潔を心掛け、いつでもゆっくり休んで頂けるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理し、その都度間違いないか確認して手渡しで服用して頂いている。また、体調の変化などは主治医に報告し、調整して頂くようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お誕生日には食べたいものや欲しい物など伺いプレゼントしたり、お花見やクリスマスなど四季折々に楽しみごとを企画するようにしている。また、できる方には、ホーム内の家事などを手伝って頂き、職員は感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	お花見や祭り見物など、気候や利用者様の体調を配慮しつつ、出かけるようにしていたがこの所出来ていない。	以前は月に1回位の割合で花見やドライブなどに出掛けていたが、現下のコロナ禍により一昨年の秋ぐらいから全く出来なくなっている。それでも僅かながら敷地内の散歩や花壇の花、季節の野菜を摘んだりして外出気分が味わえるよう精一杯の支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は『お預り金』として一定金額をグループホームで管理しており、利用者様のご希望に応じて必要な物を購入し支援している。お預り金の収支は定期的に家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じ事務所の電話を使って頂ける。毎年、年賀状もご自身で書いて頂くよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔を保つよう毎日掃除を行い、利用者様が快適に過ごせるよう心掛けている。リビングには、季節の花を飾ったり、季節に応じた壁飾りを作ったり、季節を感じて頂けるような空間作りを心掛けている。	元々、運営法人の病院であった建物を利用しているもので、事業所本体は2階部分にあるため採光が良く特にリビングは明るく保たれている。壁の飾り付けや花壇からの花などは利用者も手伝いながら季節感を演出しており、明るく楽しい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士、ゆっくりくつろげるよう、座る位置など配慮している。自分の席だと判るよう、個々の座布団を置くなど工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご自身が過ごしやすいよう、お好みの家具など持ってきて頂いている。また、室内で転倒や事故のないよう、職員がさり気なく整頓させて頂いている。	居室は6畳程の広さでシンプルであるが、造り付けの洗面台等により清潔で機能的な生活が出来る。利用者の居室での過ごし方は、習字・読書などそれぞれ趣味を楽しんだり、単に休憩したりと様々であるが、いずれも入居前の生活と変わることのないよう職員は支援に心を尽くしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどのサインは大きく掲示して、認識しやすいよう工夫している。動線にはほとんど手すりがあり、自立して移動できるよう支援している。		